

東日本大震災 MSW 災害支援ニュース



**JASWHS** 公益社団法人 日本医療社会福祉協会  
Japanese Association of Social Workers in Health Services

平成 28 年 5 月 30 日 第 6 巻 (第 1・第 2 合併号)

発行：東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル2F

災害支援チーム TEL (03)3351-5038

FAX (03)5366-1058

Mail: dsstsw@jaswhs.or.jp

## もくじ

1. 現地責任者着任の挨拶
2. 災害福祉支援活動基礎研修に参加して
3. 宮城県医療ソーシャルワーカー協会との交流会に参加して
4. 活動報告
5. 災害支援チームからのお知らせ
6. 災害支援ニュース発行のお知らせ
7. あとがき

**熊本地震で被災されたみなさま  
心よりお見舞い申し上げます  
復興への道のりがより短くなるよう  
祈念いたします**

## 1. 現地責任者 着任の挨拶



石巻事務所・現地責任者として着任した福井康江氏からの挨拶です。  
今年度4月から2年間現地に、先頭に立って復興支援活動を支えてくれます。



### 災害支援チーム

現地責任者 福井 康江

この4月より、石巻災害支援チームの現地責任者として着任させていただいておりましたが、遅ればせながらこの場をお借りしまして皆様へのご挨拶を申し上げます。

卒後、地元栃木で医療ソーシャルワーカーとして勤務し、その後福祉士の養成の職を経た後、2012年より岩手にて被災地支援の業務に携わらせていただいております。

2011年の4月末から1週間程でしたが、こころのケアチームの一人として石巻市に入ったことが、自身の被災地での活動を始めるきっかけでしたので、昨年、元の上司でもあり恩師でもある相原和子氏より、本協会の石巻現地支援チームのお話を頂いたことは、何かとても縁を感じるものでした。

本協会の石巻災害支援チームは、震災直後より熱心できめ細やかな支援活動を続けて来られたことを伺っており、現在も各関係機関の皆様からの温かい信頼を得て活動をさせて頂いております。これも、今までバトンを繋いでくださいました、数々の皆様の活動の賜物と感じております。バトンをいただきました今、身の引き締まる思いを抱えつつ、チーム一同ゴールテープへ向けてまい進したいと思っておりますので、今後とも皆様の温かいご支援ご鞭撻を頂けますよう引き続き何卒よろしくお願いいたします。



## 2. 災害福祉支援活動基礎研修に参加して



共催 日本医療社会福祉協会と  
日本ソーシャルワーク教育団体連絡協議会（ソ教連）との初めての共同研修  
日程 2016年3月20日 ～ 3月21日



日本医療社会福祉協会  
公益事業統括責任者 坪田 まほ

平成 28 年 3 月 20-21 日に桜美林大学四谷キャンパスで開催された標記研修会に参加いたしました。この研修は「今までの災害支援活動を通して、福祉専門職が行うべき災害支援としてまとめられた」基礎研修として日本医療社会福祉協会と日本ソーシャルワーク教育団体連絡協議会（ソ教連）が初めて共催で開催されたものです。今年度は 4 回（宮城、静岡、和歌山、高知の 4 ヶ所で）開催が予定されています。

一日目は、災害時の DMAT 活動に代表される医療活動や福祉全般に関する講義を皮切りに、生活基盤がことなる被災者に対しての「発災時」「避難所生活期」「仮設住宅入居期」「恒久住宅移行期」における福祉専門職の行うべき支援の基礎となる知識の講義と「東日本大震災」と「関東・東北豪雨による水害」への支援活動の事例報告が行われました。内容は「基礎」ということではありませんが、私には一日で消化仕切れないほど濃厚なものでした。それだけ災害支援活動には平時から多くの基礎知識を蓄えておくことが必要であることを学びました。また「外部支援は現地の後方支援である」という言葉が何度も繰り返し強調されていることも頭に残りました。

二日目の演習は班にわかれ「発災時と避難所生活期の支援」「仮設住宅入居期の支援」「恒久住宅移行期の支援」のグループワークを各班ともすべての期について行いました。グループメンバーは社会福祉協議会の職員、介護職、SW と様々で、また、初対面のメンバーが多い中で、はじめはみなさん遠慮がちな意見交換でしたが、その状況から研修ねらいのひとつであった「福祉、介護などの様々な専門職がともに学ぶことにより、実際の被災地支援で求められる福祉職間連携を考える」意味を理解することができました。大変充実した演習でした。

研修終了後、今後災害がおこった場合に災害支援活動に参加する意向があるかの登録を行いました。まだまだ実際の支援活動で十分役に立てる自信はありませんが本研修を企画していただいた方がたへの感謝の念で登録させていただきました。

この原稿を書いている時期には「H28 年熊本地震」が発生しております。日本医療社会福祉協会の災害支援活動に関与させていただいている中で特に「発災時」の福祉専門職の支援活動についてさらに学びたいと思いました。



### 3. 宮城県医療ソーシャルワーカー協会との交流会に参加して

#### 災害ソーシャルワーク研修 in 石巻

東京都医療社会事業協会  
武山ゆかり

新しく敷設された仙台東北ラインに乗換え仙台から、1時間弱で石巻に到着。壊滅した石巻市民病院が駅前に新たにほぼ立ち上がり、年内の開設を迎えようとしている。

今回の宮城県医療ソーシャルワーカー協会との交流会は、2011年12月の初回から5回目を迎え石巻日赤病院と宮城県協会の共催で災害発災時のソーシャルワークについて学ぶ。

会場や講師、懇親会まで石巻日赤のMSWが忙しい業務をこなしながら整えて下さった。しかも熊本地震が広域化し、急遽石巻日赤病院でも朝5時からワーカーに招集がわかり、総出で物資を積み込み、救急科医師ほか連携室のスタッフも既に現地へ向かったとのこと。あの日を思い出し、胸が騒ぐ思いをされている中での出迎えであった。

研修の神戸最初のプログラム、赤十字病院の心療内科医からは支援者や遺族への対応、心のケアについて、支援に入るMSWとして押さえておくべきことが話され、宮城県協会のワーカーは当時の自分自身や協働するスタッフの姿を思い出す様に頷き、当時学生の若いワーカー達は真剣な表情での講師の話

に聞き入った。熊本に向かった講師に代わって当時転院に走り回った伊藤ワーカーから、発災後すぐの日々の詳細な様子をデータに沿い、またMSWが医師との協働により対応の改善が図れたプロセスなどを伺った。続いて日赤からの患者を引受けた仙台の東北大学病院、当時包括支援センターで沿岸に近い高齢者施設からの全員避難やその後の対応にかかわったSWの、それぞれに持ち場で奮闘した緊迫する報告をお聞きした。

「今、うちの職員の流行は<sup>はやり</sup>体育館でのビュッフェなんです」と副院長お勧めのケータリングで、話も尽きない懇親会、若い参加者の二次会と、盛り上がった。

「その時、何が出来るか？」と被災地に来るにも勇気がいった、という参加者から「同じMSWとして、その時悩まれたこと、今笑えることを知り、自分にも立向かえるかも知れないと自信に繋がった」という言葉が聞かれた。「(災害は)明日、起きるかも知れないのだから」と。

翌日の女川見学、津波が押し寄せる動画と倒壊した街に声を呑み、語り部の方の話に、今も続くその日の爪痕を実感。一方真新しい

街と働く方の笑顔に確実な復興への意気込みを感じ、明るい気持ちになれた。午後、日本医療社会事業協会現地担当者より、仮設住宅から復興住宅への移行とその後のコミュニティへの繋がりなど、まだまだサポートの必要な課題の多いことを聞き、支援のこれ

からや参加の必要など、胸に刻んだ。

忙しい中、お世話下さった宮城県協会、石巻日赤病院、日本協会現地担当者の皆さまに心より感謝を伝えたい。熊本地震の終息を祈ります。



## 4. 活動報告

### 仙台循環器病センター 長谷川 敦

午前 定例・石巻・男のあそぼう会

参加者 6 名とスタッフ 6 名 計 12 名の参加

今回は、平成 28 年度の第 1 回目の活動で、交代で参加しております、宮城県協会メンバー 3 人も全員そろい、新たにおいでいただいた支援員、福井さんの紹介で当日の活動がスタートしております。

活動内容は、石巻市郊外の多目的公園内で桜の花見鑑賞を兼ねた、をやる活動でありました。今回、初の試み、マレットゴルフ（英語：Mallet Golf）とは、スティックとボールを使って、少ない打数でゴールホールにカップインさせることを競うスポーツである。[日本](#)で生まれた競技であり、[木槌](#)（マレットの語源）を使った[ゴルフ](#)という意味から名づけられた。歴史は、[福井県](#)で誕生したスポーツで体力を然程必要とせずプレイでき、またゴルフに比べ非常に安価にプレイ（1プレイ数百円程度）できることも手伝い、老若男女の生涯スポーツとして普及を目指している。

当初は、[ゲートボール](#)のスティックやボールでプレイされていたが、現在は専用のスティックとボールが使用されることが多い。現在、もっとも盛んにプレイされているのは[長野県](#)で、老若男女問わず大勢のプレイヤーがいる。長野県内では、河川敷や里山など、適した土地が次々とマレットゴルフ場に整備されているようです。ルールとしては、基本は、[ゴルフ](#)のルールに準ずる。何人でプレイしてもいいが、通常ゴルフ同様 4 人一組でプレイする。一人でプレイしてもよい。1つのホールは、通常数十メートル。イン・アウトの 18ホール回って1プレイとすることが多い。PARは、通常 3~5 打。（ネット一部抜粋）のようです。

当日は、晴天にも恵まれ初夏の陽気でとても気持ちよく、対象者 6 名、支援者 6 名でグループを作り、コースを回ってプレイをし



今後、活動に参加される方でその年度初回参加時には、簡単な資料を郵送致します。  
ホームページに活動カレンダーを掲載しておりますのでご覧下さい。

## 事 務 所

引き続き募集しております。

平日のみの活動ですが1～2ヶ月に1回でも構いません。

ご協力お願い致します。

### 【2. 災害支援チーム会議開催のお知らせ】

次回会議日程

7月12日（火） 19：00～21：00 於協会会議室

### 【3. 書籍販売】

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』、  
『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』、  
『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅢ』の

販売を行っています！

発災から2011年9月30日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録を『バトンⅠ』に、2011年10月から2012年12月までの災害対策本部、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、現地SWとの協働の記録を『バトンⅡ』に、



2013年1月から2014年3月までの災害支援チーム、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、虐待防止センターでの支援・石巻市社会福祉協議会での支援、現地SWとの協働の記録を『バトンⅢ』にまとめました。

尚、売り上げの全額を皆様からの寄付として、本活動の資金にあてさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。

(注文用紙はホームページからダウンロードできます)

ボタン I :URL: [http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing\\_detail.php?@DB\\_ID@=45](http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=45)

ボタン II :URL: [http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing\\_detail.php?@DB\\_ID@=47](http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=47)

ボタン III :URL: [http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing\\_detail.php?@DB\\_ID@=54](http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=54)

#### 【4. facebook】



facebook でも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしくお願いたします。

URL

<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

#### 【5.YouTube】

現地での災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんが VTR にまとめて下さいました。YouTube にアップしましたので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。

URL

<http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be>



## 6. 災害支援ニュース発行のお知らせ

.....

今回は諸般の事情により、第1・第2の合併号として発行  
次回発行予定 6月下旬予定

## 7. あとがき

.....

災害支援チーム事務局から

編集担当 西田

熊本の地震はまだ続いている。父方のルーツは熊本である。熊本城⇒加藤清正⇒朝鮮征伐⇒朝鮮飴が私の子どもの頃の連想であった。石巻から畑中さんが支援に駆けつけている。熊本・大分の人々の生活が落ち着かれますようただただ祈ることしかできない。

石巻の駅前の市立病院は外見はほとんど出来上がっているように見える。4月の半ば、仙石線に乗り合わせた私と同世代の女性が「トイレの配線を忘れていたそうですよ。あんなに出来上がっちゃってどうするんでしょうね」と私に語りかけた。「間に合うのでしょうか」と私。石巻市民は期待と不安の中で自分たちの病院が出来上がるのを待っている。5月に入って石巻の緑が濃くなった。そして石巻の事務局に4月からベテランの福井さん、5月から3年～5年経験という若々しい男性二人が入職した。この5年、石巻支援に心も体も全力投球してくださった方々のおかげで石巻市にソーシャルワークが根付いた、と地域の専門職の話を伺う時、強く感じる。あと2年という限られた中ではあるが、ベテラン・中堅・フレッシュというコンビの活躍を期待する。



東日本大震災 MSW 災害支援ニュース

平成 28 年 5 月 30 日 第 6 卷 (第 1・第 2 合併号)

作成 日本医療社会福祉協会

災害支援チーム事務局